

4-2 坂のまち 今熊野の 全体方針図

防災軸

避難所である今熊野小学校や、市の広域的な幹線道路へ至る道は、今熊野学区住民の避難において、重要な防災軸となります。

これらの防災軸では、住民の避難や緊急車両の通行を妨げないよう、「沿道の建物の耐震・防火改修」「沿道の付属物（塀、植栽等）の改善」を積極的に行う必要があります。また防災軸の連結点は、適宜「道の拡幅」「隅切りの確保」を進めます。

市の 広域的な幹線道路

東大路通

火災の延焼防止や、災害時の避難・救助を支える広域的な幹線道路

学区の 防災上重要な東西の道

滑石街道、 日吉南通、剣道通、音無川通

市の広域的な幹線道路への避難を支える学区の防災上重要な道

学区の 防災上重要な道 の結節点等

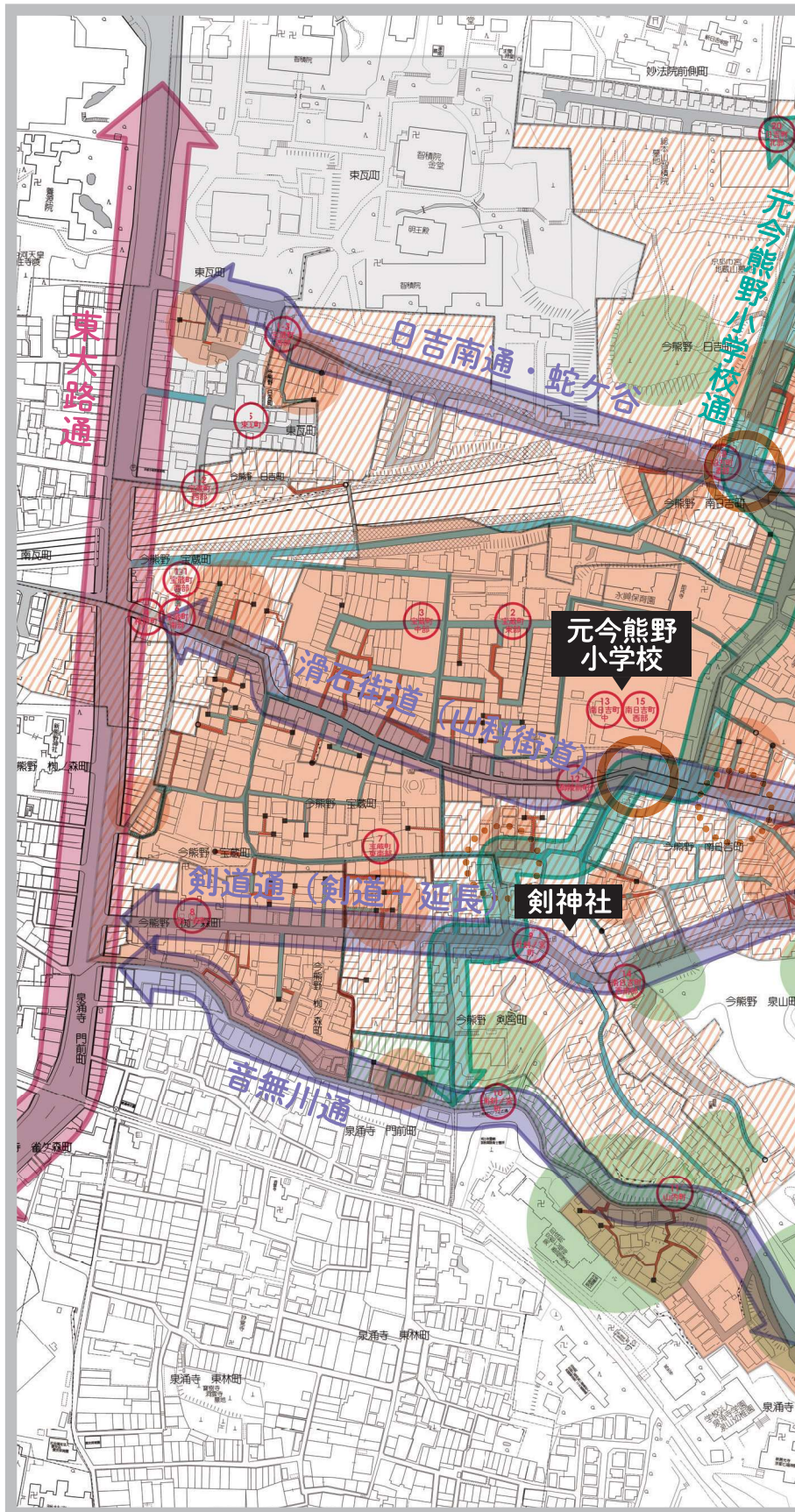
建替え時などに「部分的な道の拡幅」や「隅切りの確保」を重点的に進めていく箇所

学区の 防災上重要な南北の道

元今熊野小学校通

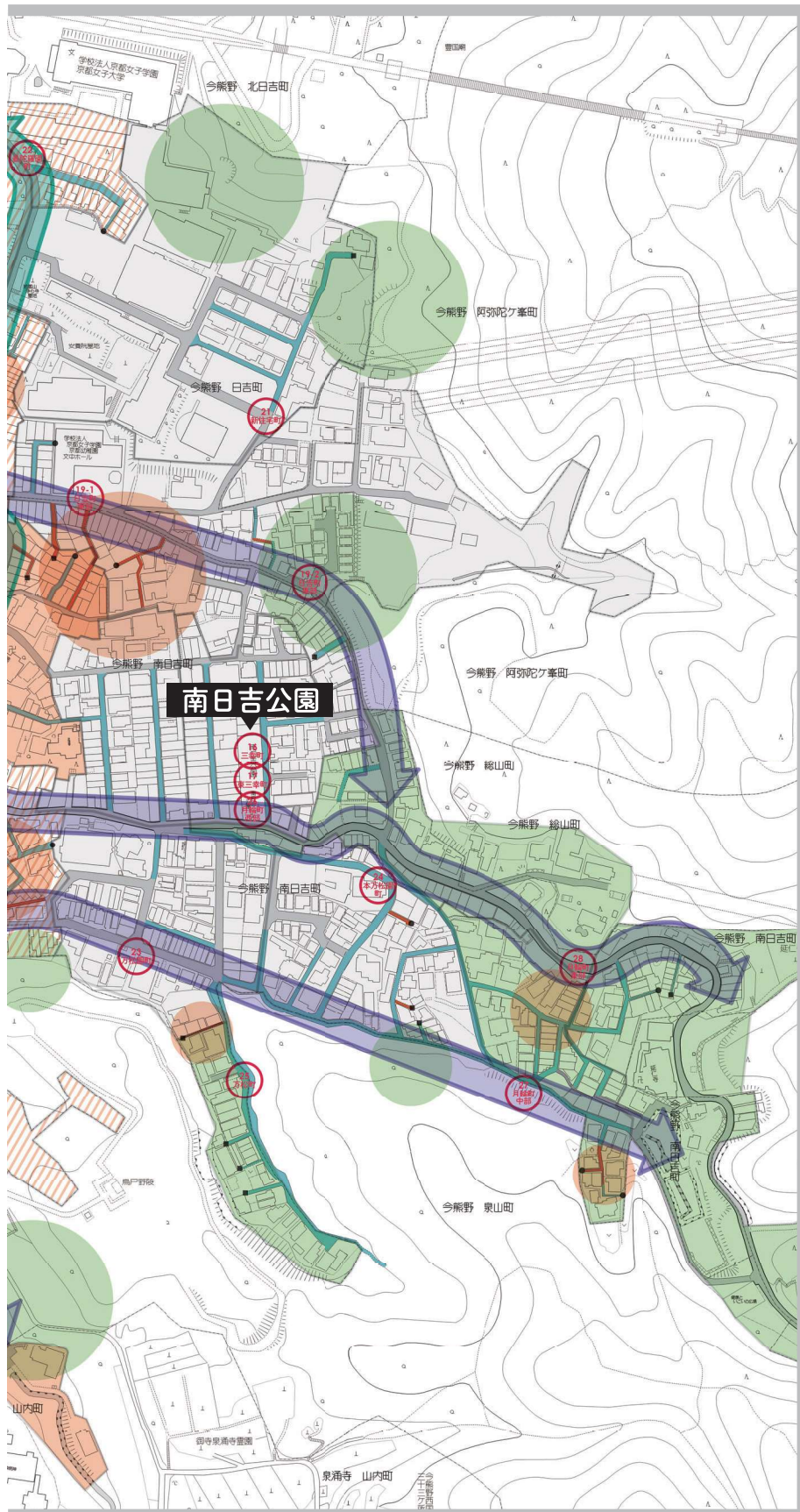
学区の防災上重要な東西の道を、南北につなぎ避難を支える道

※防災まちづくりでは、元今熊野小学校へ続く南北の道を「元今熊野小学校通」と通称します。



地域の防災力を高めるためには、防災上の整備と、地域特性に合わせた対策が必要です。災害時の避難に重要な「防災軸」、地域特性を示す「エリア」を把握し、自分の住まいや周辺でできる対策から取り組みましょう。防災上対策が必要な箇所の整備については、地域として計画図に沿って進めていきます。

エリア



今熊野学区には 28 町ありますが、地域特性が大きく異なります。「密集地の要素がある地域は、まずは地震や火災の対策を」、「山裾の要素がある地域は土砂災害を想定した備えを」、そして「標準的な地域は近隣を支えられる対策を」と、地域の特性に応じた対策を進めていきましょう。

密集エリア

袋路（行き止まり路地）など、細街路や木造住宅が比較的集中している箇所

（特に力を入れたい対策例）

- ・路地の適正管理
- ・2 方向避難の確保
- ・袋路始端部建物の耐震化・防火対策等
- ・路地・町単位の防災対策
- ・防災ひろばの整備

標準エリア

学区内では比較的防災上の課題が少ない地域

（特に力を入れたい対策例）

- ・災害時の近隣からの避難に対応できる拠点等の整備
- ・近隣地域との連携体制、災害時の対応ルールづくり等

山裾エリア

大雨等の影響により土砂災害などの被害が懸念される、特に山裾に位置する箇所

（特に力を入れたい対策例）

- ・道の適正管理
- ・災害時の対応ルールづくりなどの避難体制の強化
- ・情報伝達体制の強化
- ・防災ひろばの整備
- ・道の整備等